2023年１０月１５日
メッセージタイトル「　アテネ宣教②　信心と信仰　」
使徒言行録17章22～28節

１．接点づくり
新共同：信仰のあつい　　口　語：宗教心に富んでおられ　　新改訳２０１７：宗教心にあつい

２．信心から信仰へ
町を巡りながら、アテネ人たちが「拝む」ものを観察した。
（　　）ではなく、（　　）対象という言葉を使っている。
『知られざる神に』とは何か？　アテネの人々が「知らずに礼拝」している神について。
信じている対象がはっきりしていくとき、信心から信仰（仰ぐ）ことになっていく。

３．知られざる神の紹介
①２４節　万物の創造主
世界：旧約聖書の中には出てこない言葉、概念
聖書では（　　）や（　　）という言葉がそれに該当する。
パウロギリシャ語を使いながら、（　　）にできるように努めている。
パルテノン神殿を（　　）していく。
②２５節　人間の創造主
旧約聖書においては神々の世話をする愚かさについて示されている。（エレミヤ１０：１―５）
パウロが信じる神はどのようなお方か。すべての人に命と息とその他すべてのものを与えられる
命＝ギリシャ語でzoe　（　　）＝最高神と結びつけられていた。
パウロは神殿だけではなく、最高神「ゼウス」小さくさせます。
③２６節　時代の創造主
ひとりの人＝（　　）から民族が生まれる
民族の話をしているところからすると、（　　）とすることの方が適切であると思われる。
居住地の境界とは領土のことでもある。すべての時代に盛隆と衰退がある。
④２７～２８節　近くにおられる神
人に神を求めさせるため＝自分の（　　）とおりに行かないことを経験させる。
パウロは（　　）れば神が見つかる、としている。
つまり、（　　）神ではなくなることを教えている。
詩人たちの言う「神」とはギリシャ哲学の神のことを指しているが、それを「知られざる神」を説明するために、人々がすでに知っていた言葉を用いる。

メッセージ　宣教の基本姿勢
① 価値（礼拝）が違っても見下さない　→　共通することを見つける
② 正しい神理解とやわらかい説明　→　違いを見定め、相手の言葉で語る